

生き物文化誌学会 しまね雲南例会

5月14日(土)『生き物文化誌学会しまね雲南例会』が雲南市加茂文化ホール ラメールで開催され、地元を含む全国から約160名が参加しました。地酒の普及を通じて、地域文化の理解促進、地域経済の活性化を図ることを目的として、雲南広域連合では、平成26年に「雲南の地酒で乾杯を推進する条例」を制定しました。全国の学者の皆様、企業の皆様が雲南の地酒をPRするため、このたび雲南地域で例会が開催される運びとなりました。

例会は、全国各地で開催されており、学者や研究者だけではなく、「生き物」とその文化に興味をもつ人が参加出来る集まりとなっています。

鳥類や両生類、ナマズの研究者としても著名な秋篠宮文仁親王が学会設立に尽力されています。

生き物文化誌学会は、「生き物」についてのさまざまな知見を得て、さらにそれらの「生き物」が人間文化とどのように関わっているのか、その物語を調べていくことを目的とされています。

しまね雲南例会実行委員長の本間恵美子さんの開会挨拶に続き、生き物文化誌学会会長の陽捷行さんの挨拶で幕を開けました。

今回のしまね雲南例会でのテーマは、「出雲で日本の酒造りの源流を辿る」と題して、酒と稲と人々との関わりについて、3人の講師を迎え講演をいただきました。

1つ目の講演は、『酒から見た古の出雲』と題し、農学博士 堀江修二さんに「出雲風土記」で伝承される「佐香神社」の濁酒、記紀神話のヤマタノオロ



チ退治の「八醜酒」など、古の出雲の酒について語っていただきました。

2つ目の講演は、『鉄と米と出雲の国』と題し、人間文化研究機構 理事 佐藤洋一郎さんに、かつての出雲地方を支えた「鉄と米」について、「鉄の農具が水田の開発と生産性の向上に繋がり、豊かな米が出雲の人口を増やし国力を高めた」など、たたら製鉄と稲作の関係について語っていただきました。

3つ目の講演は、『出雲の酒文化～「神在祭」と「直会」をめぐる～』と題し、万九千社 立虫神社 宮司 錦田剛志さんに、「神在祭の神話と祭儀」、「御神酒」、「酒造り」、「直会」などの事象から、出雲の神祭りや酒文化の濃密な関係について語っていただきました。

最後に、総合地球環境学研究所 名誉教授 秋道智彌さんをコーディネーターに迎え、堀江さん、佐藤さん、錦田さんによる総合討論が行われました。



総合討論 秋道さん



総合討論 講師陣

春のまるごとグルメフェスタ 2016

4月2日(土)、3日(日)の2日間、広島市の旧広島市民球場跡地で開催された『春のまるごとグルメフェスタ2016』に参加しました。今回で3回目となる春の大型グルメフェスタ。当日は、舞茸そば、生どら、漬物など雲南地域の食とともに来場者4万4千人(2日間合計)へ雲南地域の魅力を発信することができました。

当日は、やまなみ街道、しまなみ海道沿線のご当地グルメが大集合!!

今年は、ご当地グルメに加え地産地消やテーマを絞ったコーナーなどもあり、約80店舗の飲食ブースがにぎやかに軒を連ねました。

毎年、春の気持ちの良い天候の中開催されるこのイベントを楽しみにしている家族や、「雲南に桜を見に行つた。」「今度、雲南地域に行く予定。」など雲南地域のことを知ってくださっていること、訪れてくださる方が増えていることをうれしく思いました。



グルメフェスタ